

平成29年10月26日(木)
福祉関係者のための
高次脳機能障害研修会

生活訓練サービスの取り組み ～社会的行動障害のある方に対する 訓練・支援について～



国立障害者リハビリテーションセンター
第一自立訓練部 生活訓練課
作業療法士 安部恵理子
精神保健福祉士 和田愛祐美

本日の発表

1. 生活訓練の紹介
2. 社会的行動障害のある方への支援

1. 生活訓練の紹介

障害福祉サービス

日中活動系[昼間]

居住系[夜間]

訪問系

介護給付

- ・療養介護(医療型)
- ・生活介護(福祉型)

- ・共同生活介護
- ・施設入所支援

- ・ホームヘルプ
(居宅介護)
- ・重度訪問介護
- ・同行援護
- ・行動援護
- ・重度障害者等
包括支援
- ・短期入所
(ショートステイ)

訓練等給付

- ・自立訓練(機能訓練・生活訓練)
- ・就労移行支援
- ・就労継続支援(A型・B型)

- ・共同生活援助
(グループホーム)

地域生活支援事業

- ・地域活動支援センター

- ・福祉ホーム

概要

サービス		対象者	定員	期間	サービス内容
障害福祉サービス	生活訓練	①高次脳機能障害の診断を受けている ②自立した生活を送るために訓練を必要としている ③障害福祉サービス受給者証の交付を受けている	30名	24か月以内 (原則)	・生活リズムの確立 ・生活管理能力の向上 ・社会生活技能の向上 ・代償手段の獲得 ・作業耐性の向上 ・進路検討の支援

集団訓練

- ・社会生活技能
- ・スケジュール管理
- ・農園芸
- ・調理
- ・リハスポーツ
- ・レクリエーション 等

個別訓練

- ・身辺管理
- ・家事動作
- ・移動
- ・コミュニケーション
- ・作業療法
- ・職業準備訓練 等

目的

●スケジュール管理

予定表や携帯電話等を活用しながら、日課に沿った行動ができるようにします。

●社会生活技能の向上

対人関係や日常生活を振り返り自己認識を高めることで適切な対処方法を身に付け、様々な場面で状況に応じた行動ができるようにします。

●生活管理能力の向上

服薬管理、調理、洗濯、掃除、公共交通機関の利用など、生活に必要な活動を身に付けます。

●作業能力の向上

様々な作業場面を通じて、得意なことを活かしながら必要な代償手段や環境、作業内容を具体化します。

訓練プログラム概要

【メイン・プログラム】

- ・園芸訓練
- ・調理訓練
- ・就労準備訓練

【基礎プログラム】

- ・日常生活訓練
- ・学習ワーク

【目的別プログラム】

- ・メモ練習
- ・作業手順訓練

【共通プログラム】

- ・朝夕の会、掃除、プランニング、まとめ
- ・グループワーク ・プリント学習

週間スケジュール

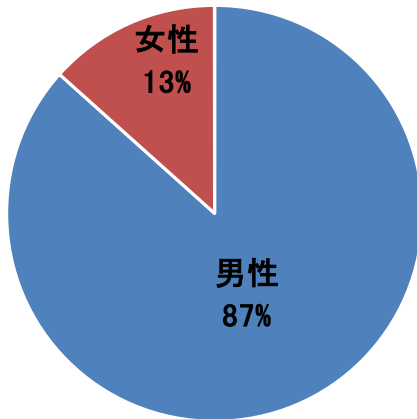
	月	火	水	木	金
9:00	HR・朝の会	HR・朝の会	HR・朝の会	HR・朝の会	HR・朝の会
10:00	プランニング	園芸 調理 就労準備			GW (グループワーク)
11:00	日常生活訓練 学習ワーク				
12:00	昼 休 み				
13:00	園芸 調理 就労準備	学習ワーク・プリント学習 個別OT			園芸 調理 就労準備
14:00	作業手順				メモ練習
15:00	掃除・夕の会				掃除・夕の会 まとめ
16:00	フリータイム・面接など				

※ 個々の状況や目標に応じて、面接やリハ体育、個別訓練、自動車訓練等を追加し、訓練プログラムを作成します。

利用者の状況

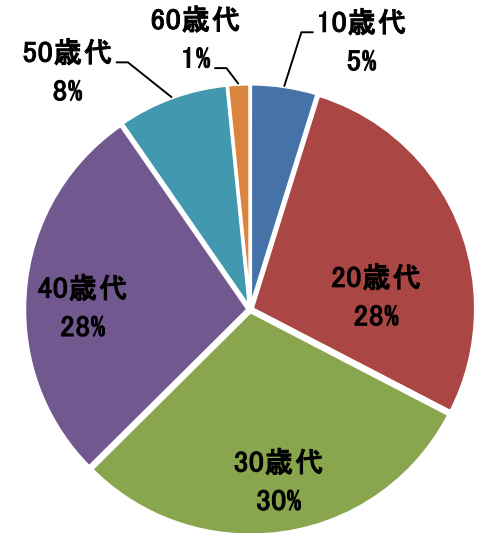
平成18年10月から平成29年3月までに利用開始した187名

性別

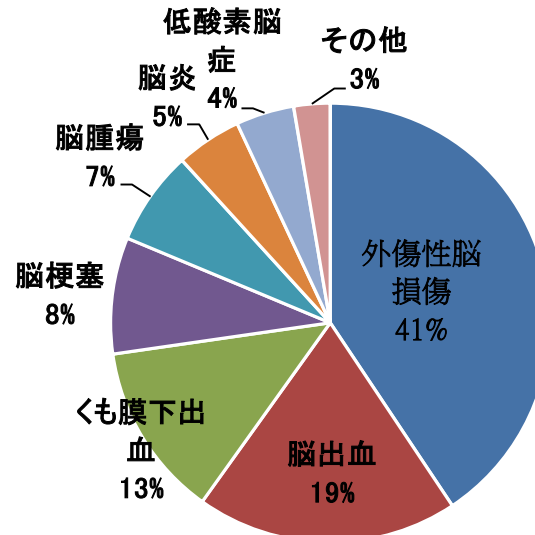


平均
35.7歳
(16~67歳)

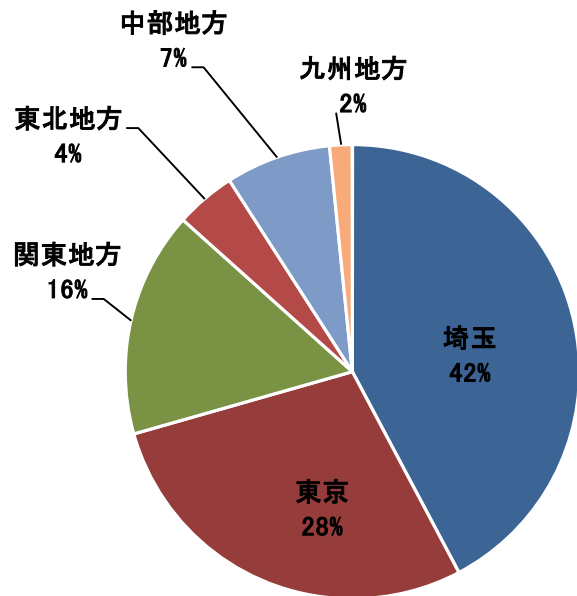
年齢



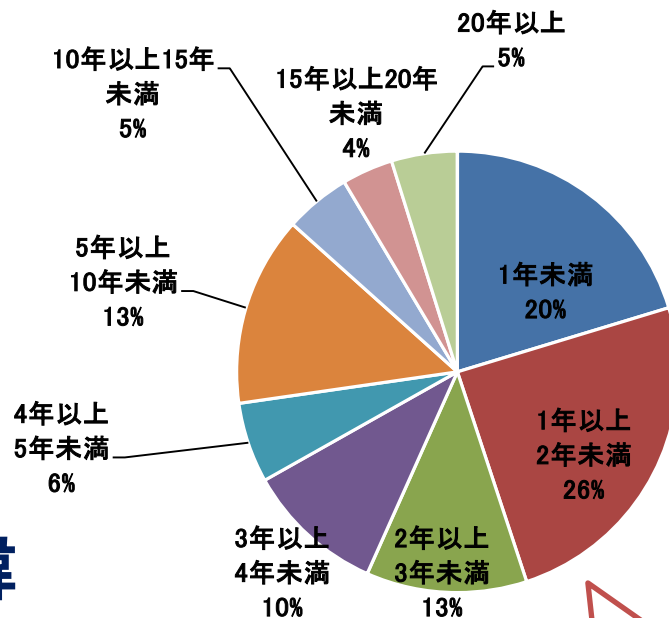
原因疾患



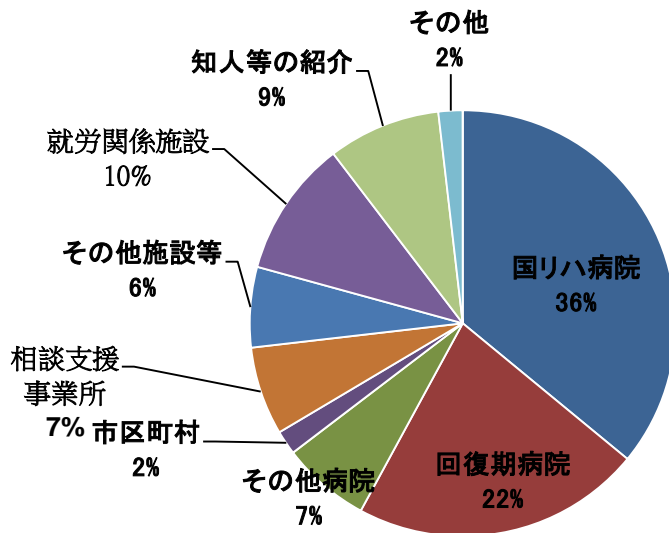
居住地



受傷・発症からの期間

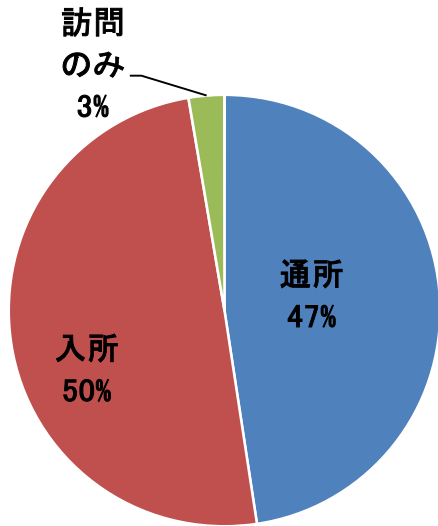


利用経緯

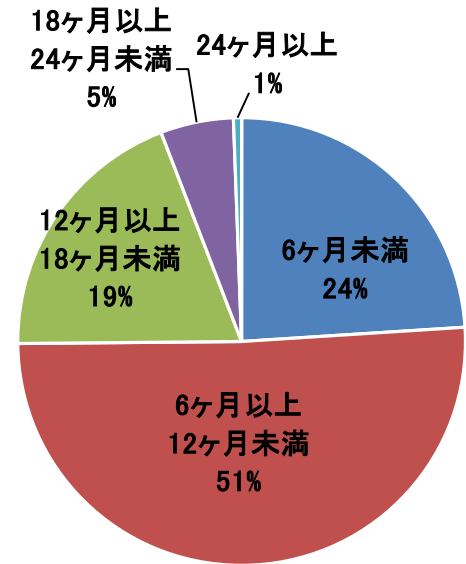


平均
1742日(約4年9か月)

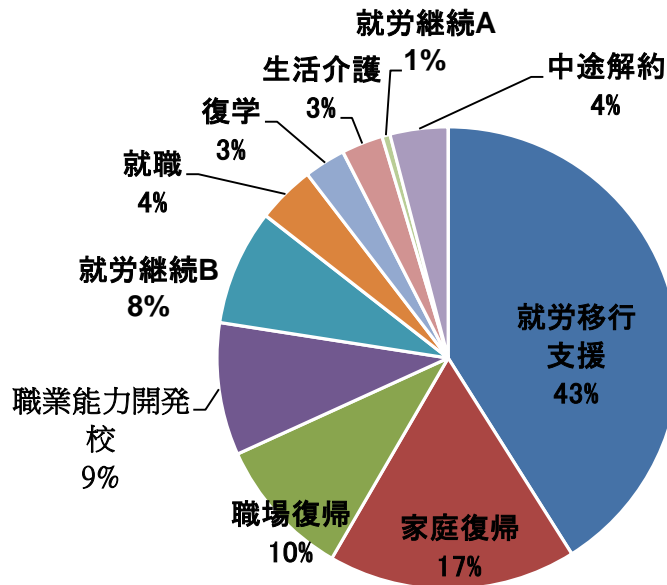
利用形態



訓練期間



帰結

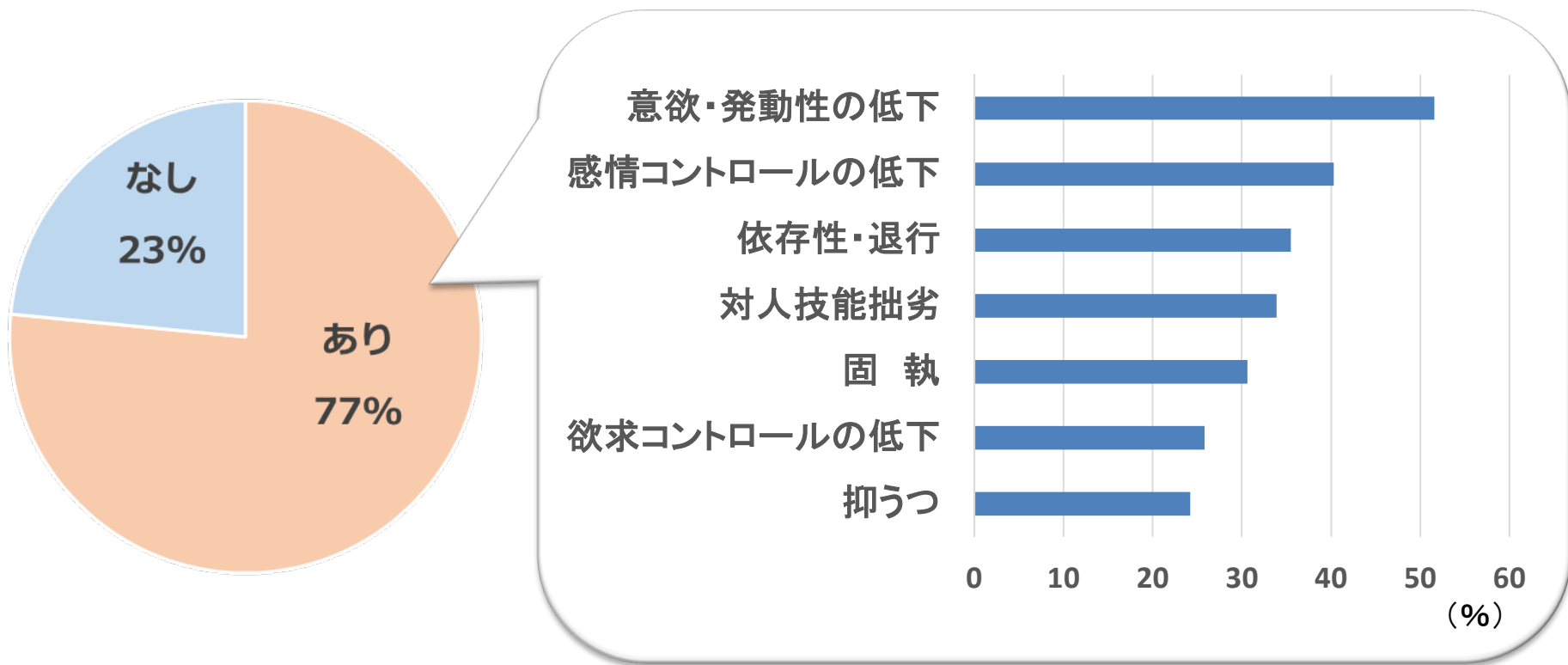


平均
292日(約9.7か月)

※平成29年4月末時点

2. 社会的行動障害のある方への支援

生活訓練利用者における社会的行動障害



※重複あり

平成23年度から27年度までに利用開始となった89名のうち、すべてのアセスメントデータが揃っていた81名における割合

日常生活 (日課の遂行)

意欲・発動性の低下

- ・行動全般で促しや指示が必要
- ・ぼーっとしている、テレビしか見ない
- ・面倒くさがる、すぐ諦める
- ・動作が止まる、遅い
- ・新しいことをしようとしな

依存性・退行

- ・他者に依存的、すぐ頼る、甘える
- ・できることでもやろうとしない
- ・子供っぽくなった
- ・子供と本気の喧嘩をする

抑うつ

- ・落ち込みやすい
- ・失敗すると落ち込む
- ・昼夜逆転、生活リズムの乱れ
- ・不安や緊張が高い

社会生活 (対人関係 ・ストレス対処)

感情コントロールの低下

- ・怒りっぽい、気が短い、喧嘩っ早い
- ・暴言や暴力、物を壊すなどの攻撃的な言動
- ・感情の波がある
- ・気持ちを切り替えられない
- ・思い通りにならないとパニックになる
- ・ちょっとしたマナー違反が許せない

対人技能拙劣

- ・場の状況や空気が読めない、気を遣えない
- ・人間関係が築けない
- ・人の話を聞かず、言いたいことだけ言う
- ・だまされやすい
- ・マナーやルールを守れない

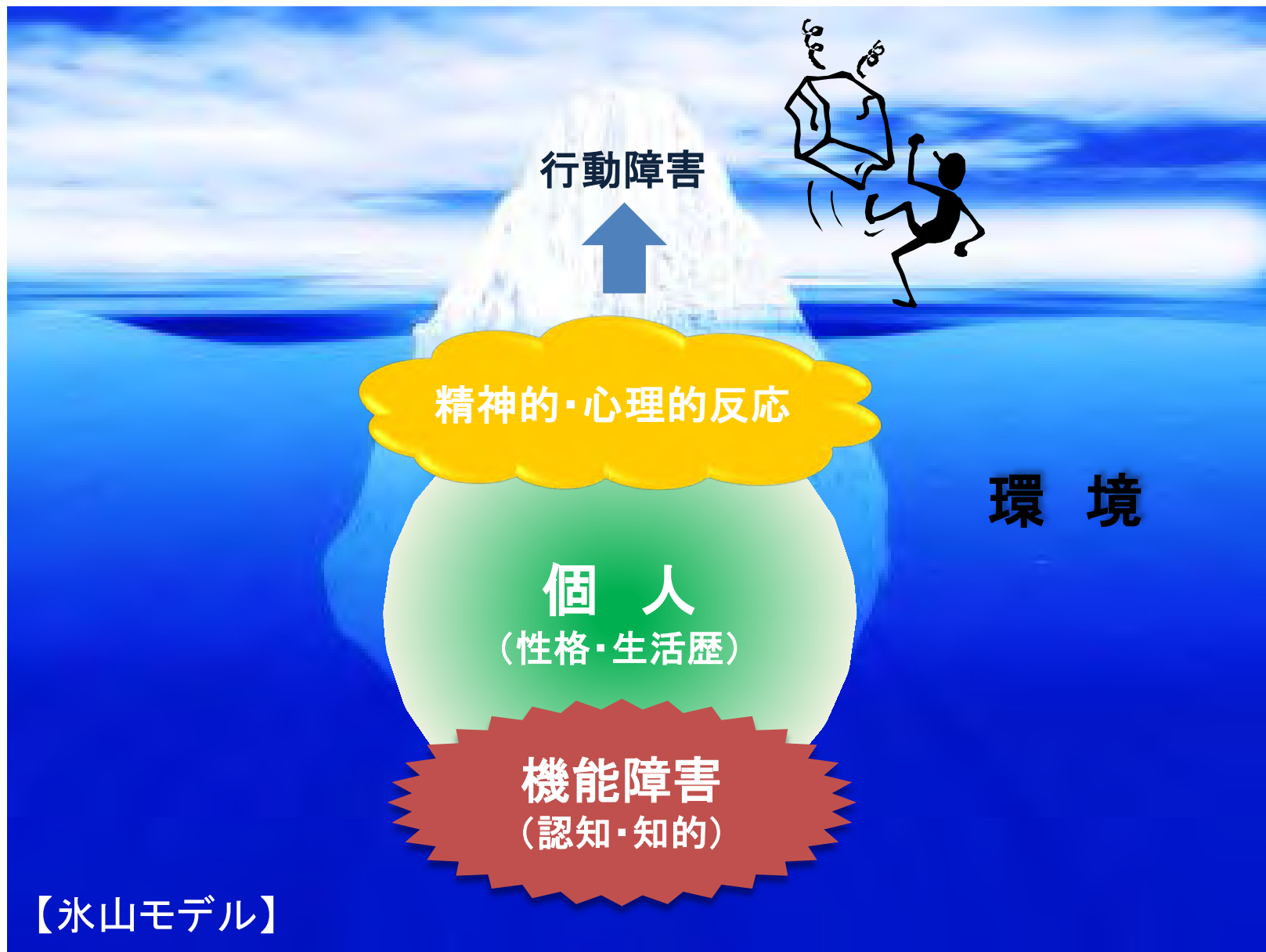
固執

- ・特定の考えや行動、物にこだわる
- ・思い込んだら修正できない

欲求コントロールの低下

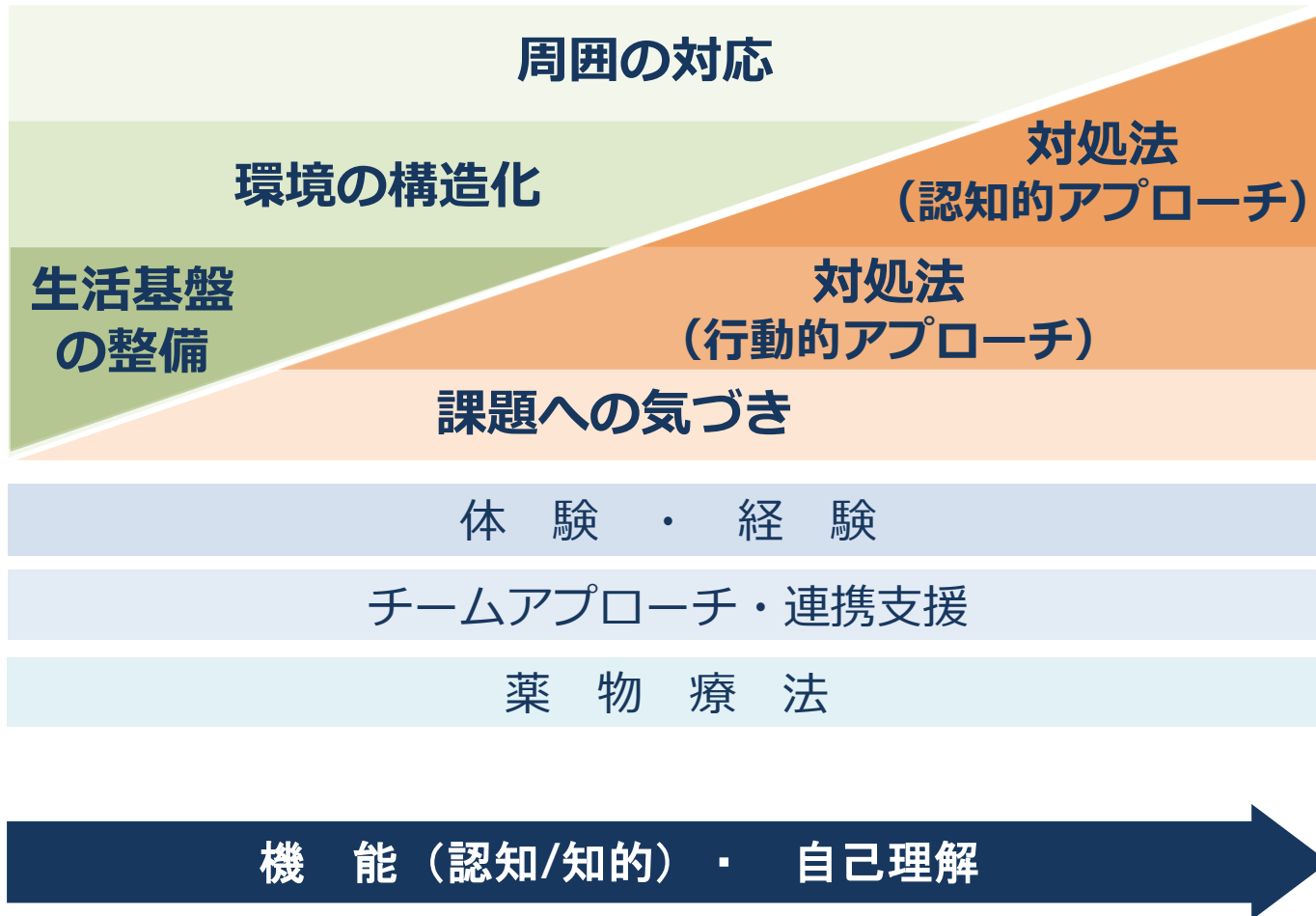
- ・我慢できない(酒、ギャンブル、食べ物、性、買い物、タバコ)
- ・お金をあるだけ使う

行動障害の背景要因



行動障害への対応

環境側・
外的介入



本人側・
内的介入

(参考:阿部; 2017, 三村; 2009, Sohlberg; 2001, 渡邊; 2013)

事例紹介

社会的行動障害の支援のポイント

1. まず安心できる環境・居場所づくりから

- 物理的環境と人的環境（信頼関係）
- 好きなことや得意なことを活かす場、役割を持ち認められる経験

2. 課題への気づきから障害の自己理解へ

- 行動の振り返りとフィードバック
- 行動の原因と結果の具体化
- 納得に基づく対処方法やルールの理解
- 成功体験と失敗体験をチャンスに

3. 問題行動だけでなくニーズと生活全体を捉える

- 本人主体のオーダーメイド
- 解決志向型の合理的な試行錯誤

4. 家族を含む地域支援体制づくりへ

- 支援者間の情報共有と対応の統一
- 家族に対する心理教育的支援
- 医療機関との連携
- 支援体制のメンテナンス、リフォーム
- 見守る支援、見放さない支援